会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 総務文教分科会		会議場所 全員協議会室
			担当職員 数井
日 時	令和5年9月20日（水曜日）	開 議	午前10時00分
		閉 議	午後 4時58分
出席委員	◎松山 ○三上 竹内 小林 浅田 原野 福井 山本 菱田議長		
執行機関出席者	三宅生涯学習部長、小塩文化国際課長、樋口市民力推進課長 岡田文化国際課副課長兼文化国際係長事務取扱 香川市民力推進課副課長兼市民活動推進係長事務取扱 森岡教育部長、川口教育部次長、阿比留教育総務課長、今西学校教育課長 井内学校教育課学事係長		
事務局	井上事務局長、数井事務局次長		
傍聴	☒ ・否	市民 1名	報道関係者 0名
		議員7名（平本、小川、富谷、山木、梅本、齊藤、林）	

会 議 の 概 要

10:00～

1 開議

[事務局日程説明]

10:01

2 議案審査 ～事務事業評価～

(生涯学習部 入室)

10:01～

【生涯学習部】

(1) 文化振興経費（かめおか霧の芸術祭に係る経費）

文化国際課長 説明

10:16

《質疑》

<原野委員>

当初予算における事業の目的では、文化芸術を通じた地域の課題解決としているが、決算資料には記載がなくなっている理由は。

<文化国際課長>

地域課題の解決と記載していたが、予算特別委員会において、分かりにくいと指摘があったため、決算資料では除いたものである。ただ、内容としてはそういったことも含んでおり、予算特別委員会では的確に説明できなかつたので、地域課題の解決に関して補足説明する。地域の課題とは市の課題と思っており、

H O Z U B A Gの例を挙げると、レジ袋提供禁止条例がまだ制定されていない段階で、プラごみゼロ宣言を進めていこうと環境と芸術が連携し、H O Z U B A Gをつくった経過がある。そのほかいろいろな面において、かめおか霧の芸術祭かけるエックスとして一緒に取組を行っており、そういった意味で地域課題の解決を目的としていたものである。

<原野委員>

H O Z U B A Gの例を聞いたかったわけではなく、当初予算の施策の概要に記載していた、地域課題の解決という表現について、非常に重い言葉だと思っており、分かりにくいから決算資料では記載しなかったというのはいかがなものかと思う。当初予算で記載され、予算が可決されていることから、決算にも記載し、それなりの説明をするべきだと考えるが所見は。

<文化国際課長>

そのとおりであり、今後このようなことはないようにしたい。H O Z U B A Gについて補足になるが、今回トレック・ジャパン株式会社と全日空商事株式会社の連携により、S D G sを意識した商品の発掘に係る試みに取り上げられ、T R E K × A N Aのロゴマークを冠した商品として限定発売されることになった。また、オーガニックの取組について、かめおか霧の芸術祭を切り口として、大学の先生と実際にオーガニック農家を訪ねてインタビューを行い、それを本にまとめるような取組もしている。

<松山委員長>

今、事業の紹介からかめおか霧の芸術祭の広がりについて答弁があったが、そうではなく、原野委員の質問に対するコメントをいただきたい。

<文化国際課長>

申し訳ない。指摘のあった点についてはそのとおりと思っており、今後そのようなことがないように気をつけていきたい。

<原野委員>

いろいろな取組を多く紹介しても、根幹がぶれてしまうと、事業の説明ができなくなってしまう。先ほどの質問に対する答弁で、意見の相違があると受け止めている。

<竹内委員>

議員になってこれまで市の取組を勉強してきたが、かめおか霧の芸術祭に関しては、議員同士でも、市の職員であっても、よく分からないという感想を聞く中で、どのように評価し、今後どのようにつなげていくのか不安がある。説明では、環境やS D G sなどと連携し、かけるエックスとして雪だるま式に広がっていく現状において、さらに分からなくなっていくのではないかと危惧している。大事なことは市民生活に何が残ったのか、亀岡市民の暮らしがどのように変わったのかという視点であり、その点はどのように考えているのか。

<文化国際課長>

6年近くかめおか霧の芸術祭に関わってきて、かめおか霧の芸術祭が大切にしている視点としては、有名な人がつくったものや見栄えがよいといったことではなく、いろいろな人が丁寧につくったもの、それを芸術と呼ぶようにかめおか霧の芸術祭では言っており、そういったものを大切に使うということは、ひいてはS D G sにつながることであり、例えば、整備された田んぼを見たとき芸術作品だと思うようになる。そのように感じてもらえるよう、地道に取り組

んでいるところであり、現在、環境と連携した取組としては、物々交換市を実施し、本当の豊かな暮らしとは何かを考えるようになり、また、市民にも伝わっていかねばと感じている。

<竹内委員>

市民がどのように感じているかが大事であり、かめおか霧の芸術祭の名前は知っているが何をやっているかは知らないという声をよく聞く。資料ではいろいろなものを掛け合わせ、全部で74の事業をしているが、これらは催しであり、こういった催しを次々と増やしていくことが、本当に日々の生活の考え方まで変えるところにつながっていくのか疑問であり、最終的にどのような成果があったのかについては、延べ来場者数が1万8,000人で文化芸術に触れる機会がくれたという点であって、結局催しにただ人が集まったという成果で終わっているため、今後の市民の暮らしと感じ方への変化とはかけ離れていると感じる。まだ私の中でもつかめていないものが多く、一言で言うと分からないというところにずっととどまっている印象である。

<文化国際課長>

この間実施したアンケート調査の結果を紹介すると、ボンボンマルシェでは、亀岡市内の参加者が87パーセントあり、うち20歳代から40歳代が65パーセント、さらに10歳代から70歳代まで幅広い世代の来場もあり、興味を持っていただいていると思っている。また城跡芸術展では、亀岡市から来られた方は50パーセントとなっている。満足度調査では、ボンボンマルシェは95パーセントが満足、城跡芸術祭は84パーセントが満足と答えている。満足した理由を記述式で記載があり、城跡芸術祭では、城跡の空間も含め心地よい時間を過ごせた、発想が面白かったなど、好評であったと感じている。

<小林委員>

言葉的に芸術にこだわりすぎているのではないかと思っている。文化といえば、その地域の文化があり、その文化振興を進めることは理解できるが、芸術はあくまでも個人的なものであり、人それぞれの考え方がある。かめおか霧の芸術祭では、農業も芸術という表現をよく聞くが、個人的に農業は芸術ではなく、仕事だと思っている。無理に芸術に寄せていく考え方が、市民には分からない要素になっている。またSDGsについて、2030年にゴールを目指すとしているが、SDGsとの連携は難しいと思っている。目標があってゴールを目指すため、その点について所見は。

<文化国際課長>

農業は芸術と捉えている点について、農業全般を芸術と考えているのではなく、農業において、大切に育てている農作物は芸術作品であり、つくられた方は芸術家であるという位置づけをしているものである。

<小林委員>

先ほど田園の美しさも芸術だと答弁があり、例えば棚田の景観を保全するような話もあるが、実際に耕作している農家にすれば、棚田の農作業は本当に大変である。芸術ではなく、文化として取り上げるのであれば、ある程度は理解できる。

<福井委員>

課長に6年間担当いただいているが、もし異動された後、ほかの職員でかめおか霧の芸術祭を同じ形で進めていけると考えているのか。

<文化国際課長>

かめおか霧の芸術祭は、当初から松井先生をはじめ、若い人が主役となって取り組んでおり、その方々により続けていくことはできると思っている。そのネットワークを市長はプラットフォームと呼んでおり、かめおか霧の芸術祭は固定化したメンバーではなく、プラットフォームとしていろいろな人が出入りをする中で、続けていけると考えている。

<福井委員>

実行委員会として、課長が取りまとめをしていることで今の状態にあるが、課長が変わればどのように展開するのか分からないと危惧している。

<浅田委員>

実施回数が74回、年間では250日間実施されているが、事業周知の広報が追いついていないのではないかと考えるがどうか。

<文化国際課長>

全ての事業に対して広報しているものの、十分とは言いがたい点もあり、今年度における一部事業では、広報担当課と連携して広報おしらせに特集ページを組むなど周知に努めている。

<浅田委員>

実施回数はこれが限界と思っており、特に参加者の少ない事業は今後見直しを検討すればどうか。

<文化国際課長>

指摘のとおり、メリハリをつけて効果的なものを実施するよう考えていきたい。

<浅田委員>

かめおか霧の芸術祭は、環境や農業、SDGsなどいろいろと幅が広いが、最終的なゴールはどこにあるのか。

<文化国際課長>

行政が発信していきたいことに対し、寄り添って、ともに発信していけるよう考えていきたいと思っている。先ほど農業や環境、SDGsということに触れたが、それ以外としては教育面において、小学校、高校、大学とも連携していることから、子どもの教育を今後伸ばしていきたい。

<山本委員>

SDGsの普及啓発の観点から、いろいろな部署と一緒に何かをつくっていく発想だと思っているが、それが市民に大変分かりにくくなっているところが難点である。今後事業を進めていく上で、市民がどのように捉えられるのか、どのように理解されるかが大変重要になってくるため、より工夫して進めていく必要があるが、その点はどうか。

<文化国際課長>

今までもそのことについて十分考えながら実施してきたはいるが、広報する際に、実施目的をしっかりと明記し、分かりにくさが解消されるよう進めていきたい。

<山本委員>

数が多ければよいというものではなく、しっかりと目的を持って事業実施に臨んでいただきたい。

<文化国際課長>

そのとおりだと思っており、内容について精査して事業を実施していきたい。

<三上副委員長>

事務事業評価の4つの観点から質問する。まず目的に照らして事業の必要性はどうか、事務事業評価調書によると、「本市の文化芸術の振興を図る。芸術の力を各種施策に生かして文化の薫る魅力あるまちづくりを推進する」とある。一方、文化振興経費の98パーセントがかめおか霧の芸術祭への補助金である現状で、本市の文化芸術の振興を図るという目的に対して妥当な事業となっているのか、所見はあるか。

<文化国際課長>

亀岡市全体で考えた場合、本市の特色として生涯学習を推進する部署がある。その生涯学習の中に文化振興があり、当初は市民力推進課において文化振興を含めた生涯学習の推進を行っていたが、市民力推進課から新たに文化国際課が創設され、現在では市民力推進課で生涯学習の推進と一部文化振興事業を実施しており、文化国際課においては芸術に特化して文化振興の取組を進めている状況にある。今後、事業の融合をどのようにしていくかが課題であるものの、現状、市全体としてすみ分けができていると感じている。

<三上副委員長>

一定納得できる答弁ではあるが、このかめおか霧の芸術祭事業において、課長が主になって注力をし過ぎているため、実行委員会の事務局として本当に後継者がいるのか、また、この事業にかかり切りになっているのではないのか、果たして、亀岡市の文化振興において、市の担う形がこれでよいのか疑問に思うが、その点どうか。

<文化国際課長>

そういった面において、他の自治体にはない特徴であると思っており、事業者を通さずに市の職員が入って丁寧に進めていくことで、現状円滑に進められていると考える。課内においても、かかり切りというわけではなく、手分けする中でバランスよく実施できている。

<三上副委員長>

次に妥当性について、市が行うべき事業なのかどうか、以前に議会から、本事業は実行委員会形式であるため、市は少しずつフェードアウトし、市が関わる部分は規模縮小するように指摘要望や付帯決議をしてきたものの、一向に変わらないどころか、新たなことを始めてさらに忙しくなっているのではないかと思うが、その点はどうか。

<文化国際課長>

数年前に受けた指摘等については十分認識しているが、近年において様々な宣言が出て、先進的な事業が行われるようになり、担ってきた内容に変化がある中で、現状、この形で進めることがよいのではないかと思っている。

<三上副委員長>

次に、効率性と費用対効果について、実行委員会において、市の補助金以外にどれだけの収入があるのか。

<文化国際課長>

ほぼ市の補助金で運営しており、他の部署から依頼があった事業について、若干の収入がある。

<三上副委員長>

本事業はSDGs未来都市モデル事業であり、SDGsの観点から協賛いただく企業や団体を見つけていくことも必要であり、その点についてはどうか。

<文化国際課長>

企業から資金を集めることも必要であり、計画していきたいと考えている。昨年、楽天のクラウドファンディングを実施し、4,296万9,000円の寄附が集まり、令和5年度から市の収入として充当しているところである。

<三上副委員長>

企業スポンサーがつくことで、実行委員会は企業に対して意識を向けるようになり、亀岡市が事務局を担うこともなくなり、独立して事業を実施いただけるようになるのではないかと考えている。城跡芸術展について、約700万円の経費となっているが、その理由は何か。

<文化国際課長>

什器類を全て新調したこと、QRコードでの情報を提供するため作家全員のインタビューを映像化したこと、事前配布用のダイレクトメールを作成したこと、準備と当日従事するアルバイトスタッフを雇用したこと、出展者への交通費を支給したことなどでこの経費となった。

<三上副委員長>

城跡芸術展は去年から始まったが、今年も実施予定か。

<文化国際課長>

10月の14日から25日にかけて、亀岡祭とタイアップした形で相乗効果になるように実施を予定している。

<三上副委員長>

実施されていることは応援したいが、調書の課題欄に分かりにくいと自ら記載されていることから、市民にとっては本当に分かりにくいと思っている。ボンボンマルシェは文化芸術への親しみより、目的は買い物であり、他の事業も分かりにくさから参加しようと思わないということであれば、評価2の対象になるとしている。

<松山委員長>

多くの事業がされているが、市民の声を聞き、取捨選択の観点から事業の絞り込みをする考えは。

<文化国際課長>

目的は文化芸術の振興であり、大きな分類は全て当初から意味を持って進めていることであるため、項目を減らすより一つ一つを意味のあるものとし、長期間実施できるようにするなど工夫していききたい。

(質疑終了)

《評価》

<松山委員長>

これより、評価を行う。各委員は個人採点について、順次報告を願う。

<三上副委員長>

必要性1、妥当性1、効率性・費用対効果2、成果1。

<竹内委員>

必要性1、妥当性0、効率性・費用対効果1、成果1。

<小林委員>

必要性2、妥当性3、効率性・費用対効果3、成果2。

<浅田委員>

必要性2、妥当性3、効率性・費用対効果2、成果2。

<原野委員>

必要性0、妥当性1、効率性・費用対効果1、成果1。

<福井委員>

必要性1、妥当性0、効率性・費用対効果3、成果3。

<山本委員>

必要性2、妥当性2、効率性・費用対効果2、成果2。

≪総合評価結果のまとめ≫

<松山委員長>

各委員の点数を合計して、100点換算した結果、分科会としての点数は32点となり、評価基準は「2課題がある」となった。この評価点数・評価基準を踏まえて、総合評価結果について協議を行いたいと思うが、採点の理由を含めて発言願う。

<福井委員>

総合評価は見直しの上縮小とする。理由としては、個人的見解として、行政が芸術に手を出すことはタブーであり、行政は基本的に全ての人に公平であることが大原則であるが、芸術は自分だけが分かる世界であるため、どうしても分からないが先行してしまう。効率性・費用対効果や成果については3をつけたが、若い芸術家が本市に移住され、HOZUBAGは独立するなど新しい波が起きているのは事実である点の評価した。

<小林委員>

総合評価は見直しの上縮小とする。芸術に力を入れるのではなく、文化の振興とするのならば理解できるため、その点を第1に考えていただきたい。また事業の項目が多いため、達成すべきポイントの絞り込みを図るべきである。

<山本委員>

総合評価は見直しの上縮小とする。事業について内容や回数を適切に設定し、市民にとって分かりやすく発信していただきたい。

<竹内委員>

総合評価は5番の休止とする。理由は福井議員とほぼ同じであり、文化芸術の振興は市が行うべきではなく、民間に任せ、行政はそのバックアップを行う形のほうが、さらなる広がるが見られると思っている。また、事業の分かりにくさから、市民のためになっていないのではないかと感じている。

<浅田委員>

総合評価は見直しの上縮小とする。事業の数が多過ぎると感じており、この点を見直していただきたい。一度、芸術家に全部任せてみることもよいのではないかと感じており、必要な補助をしていく形も検討いただきたい。

<原野委員>

総合評価は5番の休止とする。目的が非常にぶれている印象があり、一旦すべての事業を整理した上で、他の部署に任せられることは任せるなど、取捨選択をしっかりと行っていただきたい。

<三上副委員長>

総合評価は見直しの上縮小とする。休止としてもよいが、これは補助金事業で

あり、将来的にはこの補助金を減らしてゼロに近づけていくことが望ましい。現状は補助金事業でありながら、全て市の職員が担っている点が問題であり、見直していくべきである。

<松山委員長>

総合評価結果をまとめる前に、意見や改善点はあるか。

<福井委員>

新しくかめおか霧の芸術祭の構想ができたとき、生涯学習や農業、環境など、内容が広がり過ぎないかと話をしたが、現実にならなっているため、少し絞り込みを行い、今一度かめおか霧の芸術祭の本来の目的をしっかりと押さえた上で、その目的に沿った事業展開を十分に検討いただきたい。

<三上副委員長>

芸術は個人により全く価値観が違うため、文化振興に重点を置いた事業をしていただきたい。実行委員会に対し、補助金も市の労力もフェードアウトしていくように願う。

<松山委員長>

総合評価結果は見直しの上縮小とし、意見等について、SDGsモデル事業にとらわれず、文化芸術振興の目的に絞って、事業の精選に努めること、とする。詳細な文言は正副委員長に一任いただく。総合評価を受けて、主管課から所見はあるか。

<生涯学習部長>

多くの市民の方がかめおか霧の芸術祭を通じて、文化芸術に触れてもらう、そういう機会づくりで始まったと認識しており、芸術には手を出すなというような話があったが、地域の課題を解決する一つの策として、みずのき美術館や亀岡高校、南丹高校とコラボを行い、作品の展示場所がないといった問題を解決する、そういった作品に光を当てることもかめおか霧の芸術祭の役目であると感じている。また、自治体間競争において、交流人口を増やして移住・定住を促進する目的もあり、ある大学の先生から「芸術に手を出すことは難しい」が、「上手くいけば、差別化ができ、亀岡に多くの人を呼び込めるのではないか」と言われたこともある。現状のかめおか霧の芸術祭は、SDGs未来都市計画があるものの、事業ごとに目的が若干違うため、それをまとめて説明することから余計分りにくくなっている。今いただいた意見をもとに、今後それらを精査し、SDGs未来都市計画から切り離して考えてもよいのではないかと思っている。本来のかめおか霧の芸術祭のスタンスを貫き、亀岡で活動されている芸術家に光を当て、掘り起こし、市民に関心を持っていただき、亀岡で芸術活動をしていただけるように事業の整理をしていきたい。

11:36

(休憩)

11:36~11:46

11:46~

(2) 生涯学習推進経費

(公益財団法人生涯学習かめおか財団補助金)

(ギャラリーかめおか指定管理料)

(休憩)

12:04~13:14

《質疑》

<原野委員>

公益財団法人生涯学習かめおか財団には、ギャラリーかめおか運営の経験者が多いため、一般社団法人かめおかコンベンションビューローへ数人が出向されているとのことであるが、経験者がいないとギャラリーかめおかは運営できないのか。

<市民力推進課長>

施設の貸出し業務において、システムを導入しており、令和2年度まで公益財団法人生涯学習かめおか財団が管理運営をしてきた関係上、経験者を出向している。

<生涯学習部長>

指定管理の事業者が変わったときに、それまでのノウハウがなくなってしまうため、効率的な運営をしていけるように、従事経験者を新しい指定管理者へ出向させたものである。

<原野委員>

今後も継続して出向されるのか。

<市民力推進課長>

一般社団法人かめおかコンベンションビューローが指定管理者の間は、公益財団法人生涯学習かめおか財団と連携する形で出向を継続していくことになる。

<竹内委員>

現在、一般社団法人かめおかコンベンションビューローの職員が12名おり、公益財団法人生涯学習かめおか財団から5名出向され、計17名の職員のうち、1日に6から7人のシフト制としているとのことであるが、ギャラリーかめおかの指定管理において、この人数が妥当なのか不明であり、どのような業務内容となっているのか。

<市民力推進課長>

貸出し施設の受付業務が主な業務であり、多くの人数が必要となっている。また、自主事業の企画に従事する職員がいる。施設の日常管理は日本管財株式会社に委託をしているが、日本管財株式会社と調整してどのように修繕を進めていくか検討する職員、人事・経理を担当する職員がいる。勤務時間は、昼間は8時30分から17時15分、13時30分から22時の二交代制としている。また、17時15分までは5名程度、18時から22時は2から3人程度の職員を配置している。

<竹内委員>

コロナの位置づけが変わった令和5年度と、令和4年度を比較して、人員配置の考え方に違いはあるのか。

<市民力推進課長>

コロナ前に公益財団法人生涯学習かめおか財団で3名の退職者があり、その補充をするかどうか協議したが、コロナとなり人員の補充には至っておらず、嘱

託職員で対応する形とし、今も職員を増減する考えはない。

<山本委員>

資料の自主事業等について、収入の記載がないが、幾らの収入があったのか。

<市民力推進課長>

収入から支出を差し引いた、収益は271万3,551円である。

<山本委員>

収入から支出を差し引くことについて、具体的に。

<市民力推進課長>

ケータリングの自主事業収入は、1,417万8,305円で、外注費等の支出合計が、1,216万352円であり、差引き後201万7,953円の収益となる。そのほか、ハロウィンイベントやミニツリーウォールなどの自主事業を実施され、ケータリングを含む全事業合計で271万3,551円の収益となっている。

<山本委員>

指定管理料が毎年度2億円以上必要であるため、指定管理者を一般社団法人かめおかコンベンションビューローに変え、自主事業による収益を上げることで、指定管理料を少しでも削減していく考えであったと思うが、その点についてどうか。

<市民力推進課長>

収益を上げることは重要であると思っているが、自主事業の一番大きな収入になっているケータリング事業では必ず支出が伴うため、より収益を上げるためには、コンベンション機能を強化し、施設の利用を促進する必要があると考えている。

<山本委員>

一般社団法人コンベンションビューローとの契約が令和6年度までとなっている中で、増収のためにどのように働きかけているのか。

<市民力推進課長>

国際会議の招致の研究はしたが、開催の数年前には場所が決まっている状況のため、国内または府内の会議等の招致に働きかけを始めたいと指定管理者とも協議している。

<小林委員>

ギャラリーかめおかの利用時間は9時から22時までとなっているが、遅い時間の利用状況はどうか。

<市民力推進課長>

夜間の利用率として、1階の工作室等が56.7パーセント、大広間が26.44パーセント、研修室が41.64パーセントとなっている。

<小林委員>

利用時間を21時まで短縮した場合、問題あるか。

<市民力推進課長>

その時間帯は、カルチャースクールの使い方が多く、詳しくは確認しないと分からないが、利用率が少なければ21時まで短縮することも可能である。

<小林委員>

短縮することで人件費の抑制にならないか。

<市民力推進課長>

時間給で雇用している臨時職員がいるため、その分は少し減らすことができる。

<福井委員>

もともと公益財団法人生涯学習かめおか財団が生涯学習の業務を担い、ギャラリーかめおかの運営も指定管理を受けて行ってきた。後に一般社団法人かめおかコンベンションビューローに指定管理を任せられた経過の中で、公益財団法人生涯学習かめおか財団が担う役割は何か。

<市民力推進課長>

市民の自発性に基づく、自由かつ創造的な生涯学習を民間活力で推進するという目的で設立されており、ギャラリーかめおかが建設された時点では、ギャラリーかめおかの管理運営と、その生涯学習事業を推進するために設立されたものと考えている。

<福井委員>

公益財団法人生涯学習かめおか財団に職員12人が雇用され、うち5人が一般社団法人かめおかコンベンションビューローへ出向されているため、残り7人でどのような業務をしているのか。

<市民力推進課長>

公益財団法人生涯学習かめおか財団は、土日に事業が多いこともあり、夜間と休館日を除き、ギャラリーかめおかが開いている間は事務所に常駐して業務をしている。生涯学習事業と国際交流協会の事務局を担当しており、亀岡市多文化共生センターについても、管理はしていないが、目を配っていただいている状況にある。

<福井委員>

それらの業務は一般社団法人かめおかコンベンションビューローへの出向を除く7人でしていることでよいのか。

<市民力推進課長>

そのとおりであり、休館日を除き、7名のシフト制で1日3から4人を1週間毎日配置している。

<福井委員>

一般社団法人かめおかコンベンションビューローへの出向という形をとっているが、その職員は公益財団法人生涯学習かめおか財団で雇用し続けられないのか。

<市民力推進課長>

一般社団法人かめおかコンベンションビューローを法人化するとき、公益財団法人生涯学習かめおか財団の職員をどうするか、京都労働基準局と相談して協議したところ、事業が縮小したとはいえ、人員を削減する理由としては難しいのが結論であった。また、ギャラリーかめおか運営のノウハウが必要だということもあり、一般社団法人かめおかコンベンションビューローの職員とする話し合いもあったが、元々公益財団法人生涯学習かめおか財団職員として雇用した経過から、同財団の職員として出向する形をとったものである。

<松山委員長>

一般社団法人かめおかコンベンションビューローに出向した5人の給与の支払い元はどこか。

<市民力推進課長>

給与の支払いは公益財団法人生涯学習かめおか財団であり、同財団は出向の協

定に基づき、その同額を一般社団法人かめおかコンベンションビューローから受領する形になっている。指定管理料は出向者の給与を含んで積算している。

<松山委員長>

公益財団法人生涯学習かめおか財団に支払われている市補助金のうち、人件費は7名分でよいのか。

<市民力推進課長>

給与としてはそうであるが、退職金積立の部分については、同財団が支払うものとして、市補助金に算定している。

<浅田委員>

J R 亀岡駅北にホテルも二つでき、世界会議などは大きすぎて無理かもしれないが、全国に向けてそういった営業が必要かと思う。今後の計画や企画についての考え方は。

<市民力推進課長>

そういったことが必要だと指定管理者との協議において認識しており、今後、営業の仕方などについて、研修や他施設の見学などを実施する中で、対応していきたい。

<福井委員>

一般社団法人かめおかコンベンションビューローの役員名簿を見る限り、団体の長といったあて職の方が多く、営業会議を行い、どのような戦略を立てているかなどそのような協議をされるようには思えない。いわゆる実働部隊といったものはあるのか。

<市民力推進課長>

公益財団法人生涯学習かめおか財団から出向している5名と、嘱託職員として雇用している3名が中心になって、市民力推進課もできる限りの協力をしながら、進めていきたいと思っている。

<福井委員>

コロナ禍のときに利用がなくなり、収益が下がる状況にあって、役員が集まって話をされたのか。課長含め、今言われた職員がいろいろ工夫して対応いただいていることは礼を言うが、会長をはじめ役員は何をしているのか。組織改編する必要があると思いますが、それは一般社団法人かめおかコンベンションビューローの話であり、このままであれば、次は指定管理を出さないということになる。一般社団法人かめおかコンベンションビューローには、そのような意識を持ってほしいし、もっと気合を入れないといけないと感じた。

<小林委員>

総合管理業務が約1億1,600万の決算となっているが、これは外注になるのか。

<市民力推進課長>

一般社団法人かめおかコンベンションビューローから、日本管財株式会社へ一部業務委託している経費である。

<原野委員>

今後、ギャラリーかめおかの長寿命化工事など様々な問題もある中で、収支のバランスを取ることが必要であり、例えば、大広間やホールなど、稼働率がどれくらい上がればバランスが図れるのか。

<市民力推進課長>

具体的には把握しておらず、元々が公共施設であるため、市民に対して施設を貸し出し、生涯学習の推進をしているものであることから、収支バランスを取るのには難しいと考えている。

<松山委員長>

指定管理者が今の一般社団法人かめおかコンベンションビューローとなったとき、今後様々なことが想定される中で、幅広く指定管理者を選定していただきたいと言ったことがあるが、その点について所見あるか。

<市民力推進課長>

今のギャラリーかめおかの指定管理者募集では、条件付で募集し、一つは「第3次亀岡市生涯学習推進基本計画や亀岡市まちづくり協働推進指針、第3次亀岡市まちづくり協働推進実施計画を十分に理解し、亀岡市や公益財団法人生涯学習かめおか財団、各関係団体と常に連携を図り、生涯学習都市の実現のため、的確な活動のできる団体であること」と、二つ目に「受付業務を含む施設管理事業について、豊富な実務経験があり、安定した経営基盤を有していること」、三つ目に「ギャラリーかめおか条例第4条各号に掲げる事業について、関係団体と連携の実施体制が整っていること」としていた。一般社団法人かめおかコンベンションビューローが満たしている条件ではあったが、他の団体がこれを満たせないということはないとは思っているが、募集したとき特に問い合わせ等はなかった。なかなかこういった生涯学習施設や文化ホールでは収益が上がっている施設はないと聞いているところである。

<三上副委員長>

評価資料裏面の公益財団法人生涯学習かめおか財団補助金について、事業費の欄に人件費、管理費の欄にも人件費があるが、令和4年度において、これらは何人分の人件費になるのか。

<市民力推進課長>

7名分である。

<三上副委員長>

事業費のほうの人件費は令和2年が高額で、管理費のほうの人件費は令和元年度と令和2年度が高額であるが、その理由は。

<市民力推進課長>

管理費の令和元年度と令和2年度が高くなっているのは退職者があり、令和元年度は1人、令和2年度は2人退職された。事業費の令和2年度人件費は別に1名の退職者があった。

<三上副委員長>

資料表面の指定管理者支出の欄、令和4年度人件費は何人分になるのか。

<市民力推進課長>

公益財団法人生涯学習かめおか財団からの出向5名を含み17名である。

<三上副委員長>

仮にコロナがなかったとして、令和3年度から、収支が改善する見通しがあったのか。

<市民力推進課長>

指定管理者からの申請計画では、収益が上がるものではなく、指定管理料を下げるのには難しい状況であったと思っている。

<福井委員>

ギャラリーかめおかは平成10年に完成し、25年が経過し、現在は建設時のときの市債の償還が終わっている。今後、例えば、半分は生涯学習施設として、残り半分は民間に貸出し、利益を上げるような考えはないか。

<生涯学習部長>

大変よい意見かとは思いますが、そのようにするに当たり、多くの方の理解と法の整備も必要になってくると考える。今、指定管理を一般社団法人かめおコンベンションビューローが令和6年度まで受けており、自主事業を精力的に進める中で利益を上げ、市からの持ち出しを減らすところに尽きると思っているが、公共施設は、使用料をなかなか上げにくいところもある。次の指定管理者を定める際には、手を挙げてくれる民間事業者があるかどうか分からないが、できるだけ競争させたいとは考えており、営業努力は絶対に必修になってくるため、指定管理者に任せきりではなく、市も協力し、大きな催しを引っ張ってこられるよう努めていきたい。

(質疑終了)

《評価》

<松山委員長>

これより、評価を行う。各委員は個人採点について、順次報告を願う。なお、評価を2つに分けることとし、最初に公益財団法人生涯学習かめおか財団補助金について評価を行う。

<三上副委員長>

必要性3、妥当性2、効率性・費用対効果2、成果2。

<竹内委員>

必要性3、妥当性2、効率性・費用対効果1、成果2。

<小林委員>

必要性2、妥当性2、効率性・費用対効果2、成果3。

<浅田委員>

必要性3、妥当性2、効率性・費用対効果2、成果2。

<原野委員>

必要性2、妥当性2、効率性・費用対効果1、成果1。

<福井委員>

必要性3、妥当性3、効率性・費用対効果3、成果2。

<山本委員>

必要性3、妥当性3、効率性・費用対効果2、成果2。

《総合評価結果のまとめ》

<松山委員長>

各委員の点数を合計して、100点換算した結果、分科会としての点数は44点となり、評価基準は「2課題がある」となった。この評価点数・評価基準を踏まえて、総合評価結果について協議を行いたいと思うが、採点の理由を含めて発言願う。

《総合評価結果のまとめ》

<三上副委員長>

見直しの上継続である。公益財団法人生涯学習かめおか財団に関しては、目的がはっきりしており、取組もよく分かっているが、補助金を支出している以上、より一層生涯学習の推進に努めていただきたい。

<竹内委員>

見直しの上継続である。生涯学習の意義をいかに市民に啓発して参加させるか、巻き込んでいくかという取組も考慮し、生涯学習の推進にさらに力を入れていただきたい。

<小林委員>

見直しの上継続である。生涯学習という分野で内容が重視されるべきであり、さらに広く市民のために、様々な施策等を行っていただきたい。

<浅田委員>

見直しの上継続である。生涯学習の方向性をしっかり持って事業を進めていただきたい。

<原野委員>

見直しの上継続である。補助金の割合に人件費が非常に高い点があるため、今以上により質の高い事業を目指していただきたい。

<福井委員>

見直しの上継続である。

<山本委員>

見直しの上継続である。生涯学習等のニーズをしっかりと把握した上で、事業の実施を願う。

<松山委員長>

総合評価結果は3見直しの上継続とし、意見改善点としては、公益財団法人生涯学習かめおか財団に対し、市民を巻き込んで生涯学習の推進に努めていただきながら生涯学習推進の役割を引き続き担っていただきたい、とする。詳細な文言は正副委員長に一任いただく。総合評価を受けて、主管課から所見はあるか。

<生涯学習部長>

今いただいた意見を公益財団法人生涯学習かめおか財団に伝え、生涯学習の拠点として、また主導的に動くべき団体として、私たちも協働する中で、生涯学習の推進に努めてまいりたい。

《評価》

<松山委員長>

次に、ギャラリーかめおか指定管理料について評価行う。

<三上副委員長>

必要性2、妥当性2、効率性・費用対効果1、成果1。

<竹内委員>

必要性3、妥当性2、効率性・費用対効果1、成果1。

<小林委員>

必要性3、妥当性2、効率性・費用対効果2、成果3。

<浅田委員>

必要性3、妥当性2、効率性・費用対効果2、成果2。

<原野委員>

必要性3、妥当性2、効率性・費用対効果1、成果1。

<福井委員>

必要性2、妥当性3、効率性・費用対効果2、成果0。

<山本委員>

必要性3、妥当性2、効率性・費用対効果2、成果2。

《総合評価結果のまとめ》

<松山委員長>

各委員の点数を合計して、100点換算した結果、分科会としての点数は39点となり、評価基準は「2課題がある」となった。この評価点数・評価基準を踏まえて、総合評価結果について協議を行いたいと思うが、採点の理由を含めて発言願う。

<三上副委員長>

見直しの上継続である。一般社団法人かめおかコンベンションビューローに指定管理者を変えるときに、当時の担当課から、一般の会議を呼び込み、変えていくと聞いたので、そのように思っていたが、今日聞いたところでは、指定管理料は変わるものではなく、収益が上がる見込みもないようなので残念に感じている。しかし、今後、一般社団法人かめおかコンベンションビューローにもっと真剣に取り組むようにサインを送っていかないと本当に変わることはないと思うので、そういう点での努力を期待しておきたい。

<竹内委員>

見直しの上継続である。一般社団法人かめおかコンベンションビューローの在り方を見直し、より一層収益を上げる運営努力をしていただきたい。

<小林委員>

見直しの上継続である。

<浅田委員>

見直しの上継続である。一般社団法人かめおかコンベンションビューローにより計画や企画をしっかりとたて、できるだけ収益につながるよう進めていただきたい。

<原野委員>

見直しの上継続である。自主採算性の意識を高め、取組を続けていただきたい。

<福井委員>

5番の廃止である。一般社団法人かめおかコンベンションビューローに関しては、企業努力が見えず、指定管理は公益財団法人生涯学習かめおか財団に任せ、一般社団法人かめおかコンベンションビューローを廃止してもよいと考える。

<山本委員>

見直しの上継続である。市の指定管理料を抑制するため、収益事業のさらなる展開に努力していただきたい。

<松山委員長>

総合評価を受けて、部長から所見はあるか。

<生涯学習部長>

一般社団法人かめおかコンベンションビューローの努力に尽きると感じている。JR亀岡駅北にホテルが二つできたことから、コラボできるような形で発

信し、利用増強に努めていきたいと思っている。

<松山委員長>

総合評価結果は見直しの上継続とし、意見・改善点については、一般社団法人かめおかコンベンションビューローがガレリアかめおかの指定管理者として工夫いただきながら、収益改善に取り組まれること、行政として、指定管理者と連携して進め、適宜議会に報告連絡をしていただきたいとさせていただく。詳細な文言は正副委員長に一任いただく。

14:35

(生涯学習部 退室)

(休憩)

14:35~14:50

(教育部 入室)

14:50~

【教育部】

(3) 若木の家管理経費

学校教育課長 説明

15:00

《質疑》

<福井委員>

学校の体育館や運動場などを借用する場合、学校長が許可するため、学校が受付をしていると思うが、若木の手続きはどうか。

<学校教育課長>

学校施設使用条例に若木の家は児童生徒地域交流施設という名称で記載しており、教育委員会が直接管理しているため、教育委員会で受付・処理している。

<小林委員>

コロナでここ数年は学校教育活動がなかったとのことであるが、コロナ前は学校教育活動の利用はあったのか。

<学校教育課長>

令和2年から令和4年はコロナにより学校での活動はなく、令和元年に児童生徒会活動として1件、教職員研修として2件の利用があった。平成30年度に児童生徒会活動が2件、平成29年度に児童生徒会活動が2件、平成28年度に同活動が2件であった。

<小林委員>

コロナの位置づけが変更され、今後、学校教育活動が見込めるのか。

<学校教育課長>

ここ数年利用がない中で、この施設の認識がどこまで学校に浸透しているかを確認する必要があり、並行して学校に活用を促していきたいと考えている。

<山本委員>

平成24年に、社会教育施設としての変更を考えたができなかったということであるが、今後、社会教育施設として、若木の家的位置づけを変えることはできないのか。

<学校教育課長>

社会教育施設は、不特定多数が利用する施設として、法に係る施設整備の必要性から、経費の面から断念した経過がある。現状としては一定の修繕工事を行ったことから、今の形で使用できるまで使っていきたいと考えている。

<山本委員>

どのような法律により整備が必要か。

<学校教育課長>

主なものとして、消防法や建築基準法などにより、消防設備を整える必要がある。

<山本委員>

見積りをしたときの費用は幾らか。

<学校教育課長>

平成30年の積算になるが、宿泊を伴う施設に再整備する場合は約8,500万円、宿泊を伴わない集会場等に用途変更する場合で約3,500万円の金額であった。

<山本委員>

学校教育施設のままで宿泊施設に利用することは考えていないのか。

<学校教育課長>

宿泊を伴う場合、学校教育施設であっても旅館業法の適合が必要であり、現状では、宿泊での利用は考えていない。

<福井委員>

耐震機能はあるのか。

<学校教育課長>

耐震診断を行う基準の施設ではないという認識で耐震診断は行っていない。

<福井委員>

現在、子どもの利用はないものの、耐震診断はしておらず、消防設備がない状態で、仮に子どもが活動することは怖いと感じるが、その点について所見は。

<学校教育課長>

学校教育活動で利用する場合、特定の利用者による利用になるため、教職員などの目が行き届きやすいことから、緩やかな基準で建築ができたと考えている。なお、消火栓は設置できていないが、当然消火器は設置しており、排煙装置はないが、排煙用の窓はあり、一定安全確保ができていると思っている。

<福井委員>

2階に風呂があり、宿泊できる部屋があるが、実際には使われていないのか。

<学校教育課長>

風呂や宿泊部屋の利用はない。

<竹内委員>

今後の修繕計画は。

<学校教育課長>

昭和62年に設置をして35年を経過しているが、平成30年度に内外装の修繕工事を実施したことから、今後15年は現状のまま利用できると考えている。抜本的な修繕は予定しておらず、危険な状態と判断した段階で、施設利用の継続について検討したいと考えている。

<竹内委員>

15年後に抜本的な改修工事をする場合、どのくらいの費用がかかるのか。

<学校教育課長>

あくまで耐用年数から15年程度は継続して活用できるのではないかと見込んでおり、今後の行政ニーズを鑑み、今の活用よりもさらにより使い方が出てきた段階で、目的に沿った整備をする中で、若木の家を再編をしていくこともあり、そのときの利用の趣旨によって建設コストが決定されることになると思います。

<竹内委員>

教育的なニーズとして、若木の家が必要な性についてどう考えているのか。

<学校教育課長>

若木の家に対するニーズは決して高くないと教育部も考えており、やはりコロナ禍で学校活動の在り方も変わってきたと感じている。また、亀岡中学校の施設でありながら、立地的に市街地から離れており、使いにくさはあると思っている。

<山本委員>

これまで若木の家の有効利活用策について、何か協議したことはあるのか。

<学校教育課長>

市全体で総合的な視点をもって利活用を検討したことはなく、教育委員会として、社会教育施設への移行について検討されたことはあるが、先ほど説明したとおり移行には至らなかったところである。ただ、5年前に修繕等に投資していることから、当面は現状での利用を考えている。

<山本委員>

学校に対して利用の働きかけをしていかななくては利用されることはないと思っており、その点についてどうか。

<学校教育課長>

以前の形で各学校の生徒会での交流的な利用や先生方の研修などで使っただけことが第一義であり、また、クラブ活動などでの利用を促していきたいとも考えている。利用されるのであれば、スクールバスの活用によるサポートもアピールしながら、学校教育活動での利用を広報していきたい。

<浅田委員>

教育部から他の所管へ変える考えはあるのか。

<学校教育課長>

現状所管替えの考えはなく、亀岡中学校の施設であることから、さらなる利用を学校に促していきたい。

<浅田委員>

教育の一環で使えることが一番よいが、アウトドアのブームであり、産業や観光の施設とするのも一つの方法と思っている。いろいろな可能性について研究を願う。

<教育部長>

指摘のとおりであり、今後、学校教育施設でなければならないという見解にとらわれず、時代のニーズに応じた使い方を教育委員会としても研究していきたい。

<原野委員>

利用料金の変更は可能か。

<学校教育課長>

条例で料金設定の変更をすることは可能であるが、今は学校の二次利用に対しての利用がされており、それを前提として料金を変更することが適切かどうか分からない。

<原野委員>

放課後に小学校などでスポーツの利用として、体育館を借用することがあるが、その料金設定と同じ認識でよいのか。

<学校教育課長>

同じ条例での料金設定となっている。

<原野委員>

太鼓をされる方にとってはよい場所と思うが、年間の収益が8万5,000円で、年間コストが200万円かかっている現状において、今後の在り方についての考えはどうか。

<学校教育課長>

費用対効果の面で、コストと収益だけを比較すれば問題があるように思うが、目的外利用であっても年間280件の活用実績がある中で、そこで生まれてくるコミュニティや技術の向上など、人々が集い交流を深めていただいている効果はあるのではないかと考えている。

<小林委員>

今後老朽化が進み、使用できなくなったときはどうするのか。

<学校教育課長>

いずれは大規模な修繕は必要になってくると考えているが、若木の家として改修をするのか、別の目的で改修をするのか、全くの未定の状況であり、また、使用停止としたときに太鼓の練習はどうするのかといったこともある中で、今後検討していく予定である。

<小林委員>

当初の目的とは違う利用がされている現状において、所管を変えることも考えていかななくてはならないと感じた。

<学校教育課長>

教育委員会事務局としては難しい答えになるところであり、市全体として何が最適か検討していかななくてはならないと考えている。

<三上副委員長>

掃除などのメンテナンスはすべての部屋を行っているのか。

<学校教育課長>

シルバー人材センターに委託し、すべての部屋が利用できるよう、週2回管理いただいている。

<三上副委員長>

昼の部屋で会議などの活動ができることを知らない人が多く、周知もしていないと思っており、週2回清掃しているものの、利用実績がゼロとは無駄ではないのか。

<学校教育課長>

その点が学校施設と社会教育施設の違いと思っており、基本は学校の利用が主となる施設であるため、広く市民に利用を促進するようなものではないと考える。現状は二次的利用で申し出のあった社会教育団体に貸し出ししている状況である。

<三上副委員長>

コロナが収まり、様々な活動を学校が始められている中で、この施設を利用される見通しはないのか。

<学校教育課長>

立地や夏場の空調設備がないなどの問題で、利用が戻ってくることは厳しいと考えているが、社会教育団体による現状の活動をサポートする形で、運用を続けていきたいと考えている。

<松山委員長>

現状、学校施設として、学校に使用を促すことは限界があり、例えばまちづくり推進部へ所管替えし、料金設定も見直して社会教育団体の使用も継続し、それ以外のときは公園としての位置づけをするなど、教育部の中だけで考えるのではなく、全庁的な利用を視野に入れつつ、連携していただきたいと思うが、可能性としてコメントはあるか。

<学校教育課長>

そのとおり認識しているところであるが、5年前に修繕した分の効果が図れていないところであり、当面は学校施設として運営していきたい。将来において、次のニーズを探りながら、全庁横断的に検討していくことも必要であると考えている。

(質疑終了)

《評価》

<三上副委員長>

必要性2、妥当性1、効率性・費用対効果1、成果0。

<竹内委員>

必要性0、妥当性2、効率性・費用対効果0、成果1。

<小林委員>

必要性1、妥当性1、効率性・費用対効果1、成果1。

<浅田委員>

必要性2、妥当性2、効率性・費用対効果2、成果2。

<原野委員>

必要性0、妥当性2、効率性・費用対効果0、成果1。

<福井委員>

必要性3、妥当性3、効率性・費用対効果3、成果3。

<山本委員>

必要性1、妥当性2、効率性・費用対効果1、成果1。

<松山委員長>

各委員の点数を合計して、100点換算した結果、分科会としての点数は28点となり、評価基準は「2課題がある」となった。この評価点数・評価基準を踏まえて、総合評価結果について協議を行いたいと思うが、採点の理由を含めて発言願う。

《総合評価結果のまとめ》

<三上副委員長>

5の終了。太鼓の音が気にならない場所ではあるので、現状を維持したいと思

うが、実情に合うように、学校施設として教育部が管理することは終了すればよい。

<竹内委員>

5の廃止、学校教育施設としては廃止という意味である。時代や市民のニーズなどを踏まえ適切な所管へ変更してはと思う。

<小林委員>

見直しの上縮小である。将来について検討いただきたい。

<浅田委員>

4の見直しの上縮小である。新たな発展に向けた取組を検討し、所管替えをしていただきたい。

<原野委員>

5の休止である。学校教育ではなく、社会教育活動のニーズが高いことから、一度休止し、所管替えを含めた検討をいただきたい。

<福井委員>

2の現状維持である。教育委員会だけの話ではなく、亀岡市全体に問いかけた話という意味を込めて現状維持とする。

<山本委員>

4の見直しの上縮小である。全庁的に若木の家をどう活用していくかを前向きに考えていただきたい。

<松山委員長>

それでは、総合評価は6のその他とし、括弧書きの中に、例えば、施設の再編検討を入れ、意見・改善点として、本施設は、市内のニーズを捉えた中で、有効活用について全庁的に早急に検討するように、としたいが意見あるか。

<三上副委員長>

委員の意見が分かれているため、6のその他でコメントを挿入する形でよい。私は終了にしたが、それは施設を除却することを言っているわけではなく、教育部の管理経費としての支出は止めようという意味であり、施設の再編検討などでよいと思う。

<松山委員長>

意見が分かれているため、総合評価に対して再度意見願う。

<福井委員>

私は現状維持にしたが、現状を維持しながら考えていただければよいと思っただけのことであり、改めて、終了とし、市全体で考えなくてはいけない課題であるという評価としてもよい。

<竹内委員>

同じく廃止か終了がシンプルでよいと思う。意見改善点として、時代のニーズを踏まえて、ということと再編検討の言葉を入れて文章をつくるのがよい。

<小林委員>

6のその他で括弧書きに挿入する方法がよい。

<山本委員>

6のその他でコメントをつける方法がよい。

<原野委員>

6のその他で、括弧内に施設の再編検討と入れることでよい。

<浅田委員>

原野委員と同じである。

<松山委員長>

それでは6のその他とし、括弧内に施設の再編検討と入れ、意見・改善点として、本施設は、市内のニーズを捉えた中で、有効活用について全庁的に早急に検討すること、とする。詳細な文言は正副委員長に一任いただく。

<松山委員長>

総合評価を受けて、部長から所見はあるか。

<教育部長>

正直なところ、教育部として施設の処遇に悩んでいたところであり、一方で太鼓連合会における伝統文化の継承、ボーイスカウトによる青少年健全育成に使われていることは、教育部としてフォローしていかなければならないとの思いもあった。今後、建物も古くなっていくことと、市民の意見やニーズなどを確認していく必要がある。このことについて、教育部だけではなく、全庁的な検討を行う中で、有効活用を図っていきたいと考えている。

16:11

(教育部 退室)

(休憩)

16:11~16:25

3 討論～分科会採決

《委員間討議》

<松山委員長>

委員間討議としたい項目はあるか。

<福井委員>

市の入札において、予定価格は事前公表されており、最低入札価格は非公表であるが計算方法が公表されているため、結果として入札額が同額となり、くじ引きが多くなっているとのことであった。国の方針に沿っているため、違法ではないと思うが実態について各委員の意見が聞きたい。

<松山委員長>

計算式が分かると最低入札価格も算出できるため、同じ金額となり、くじ引きが多発することについて、委員間討議を行う。意見はあるか。

<福井委員>

事業者としては、できるだけ高い金額で落札したいが、最低入札価格を上回ると失格となるため、ギリギリのところを狙ってくるものであるが、最低価格が分かると同じ入札額が多発するのは当然である。実際に40件中35件がくじ引きであり、このようなことでよいのかと思っている。

<小林委員>

結果的には最低と最高の価格を公表していることになっている。

<福井委員>

予定価格は最初に公表しており、最低入札価格は公表していないと思っていたが、計算できるとなるとどうしたものかと思ってしまう。

<小林委員>

くじ引きで当たらずになかなか落札できないと聞いたことがある。

<浅田委員>

事業者から聞いたところでは、計算ソフトである程度の金額が計算できるため、入札額が集中してきているのは仕方ないと言っていた。また、入札参加にあたり、計算ソフトを購入しなくてはならず、運営面でも大変なようである。

<竹内委員>

最近のプロポーザル方式も実施しており、適切な競争がされるように願いたい。

<松山委員長>

ほかに委員間討議を実施したい項目はあるか。

<三上副委員長>

人権福祉センターの隣保館デイサービス事業について、プロポーザル方式で事業者が選定されているものの、実際に業務委託料の内訳が分からないし、担当課も詳細な内容を求めているようなので、この状態でよいのかほかの委員の意見が聞きたい。

<松山委員長>

委員間討議の提案があったが、討議を行うか。

<福井委員>

詳細な内容が分からないので委員間討議はできない。

<松山委員長>

討議したい内容について副委員長からさらに意見があれば。

<三上副委員長>

業務委託するのであれば、どのようにお金を使ったのかという資料は、事業者から全部もらうべきだと思う。まとめて契約金を支出し、使用実態を求めないことに違和感を覚える。

<松山委員長>

そのような観点でいくと、この隣保館デイサービス事業だけではなく、すべての委託業務について同様の話となってくるため、委員間討議にはなじまないと考える。

<三上副委員長>

詳細な内容についてすべて議会に報告する必要はないと思うが、課長に実態を把握しているのか問うと、「それは求めている」とあったので、内容としては把握しておくべきだと思っただけであり、特に委員間討議になじまないということなら結構である。

<松山委員長>

ほかにあるか。

<原野委員>

穂田野町佐伯灯籠をはじめ、伝統行事の保存継承に係る活動費補助金が少ないように感じている。もう少し増額されてもよいのではないか。

<松山委員長>

委員間討議の提案があったが、討議を行うか。

<福井委員>

してもよい。

<松山委員長>

それでは委員間討議を行う。意見あるか。

<福井委員>

この補助金は以前5万円だったと思うが、桂川市長が就任してすぐ、市が支出する補助金全てを2割カットした経過があり、4万円になったと記憶している。亀岡市PTA連絡協議会や亀岡祭に係る山鉾連合会の補助金も同様であると思う。

<浅田委員>

佐伯灯籠だけでなく、出雲風流花踊りの継承活動についても、関係者は必死になって頑張っておられる。過去に補助金2割カットされたときの市の予算状況もあったのかもしれないが、今となってはふるさと納税の基金もあるため、元に戻すことも検討いただきたいと思う。また、飲食費は補助対象外であり、補助対象の項目についても1円単位で領収書を提出しなくてはならないなど、事務も大変であると聞いている。

<三上委員>

確かに佐伯灯籠をはじめとする伝統文化継承のための補助金は、一律補助金2割カットされ、敬老事業などは半額となった。佐伯灯籠や出雲風流花踊りの補助金が4万円で、亀岡祭山鉾行事の補助金が160万円であることの妥当性は今話しても仕方がないが、それぞれの補助金が市の財政面の問題からカットされたのであれば、元に戻してもいいのではないかと思う。

<松山委員長>

ほかにあるか。

<福井委員>

行政改革審議会について、昭和60年からしているとのことであり、当時は行政の無駄が多くあり、相当数行革として見直しがされてきたと思っている。現在では、行政改革審議会を毎年しなくてはいけないのか疑問に思っており、ほかの委員の意見が聞きたい。

<松山委員長>

委員間討議の提案があったが、討議を行うか。

<原野委員>

してもよい。

<松山委員長>

それでは委員間討議を行う。意見あるか。

<原野委員>

現在の行政改革審議会は、少し時代と見合っていないと考えている。

<竹内委員>

13項目のテーマについて、各委員が評価をしているが、大変難しいように見受けられる。実際に知り合いが参画しており、感想を聞いたところ、扱っているテーマが大変難しく、正直分からないと言っており、本当に市民目線での評価となっているのかと思う。

<松山委員長>

実際に審議会を傍聴したとき、時間がないので1人2回までと発言を制限されており、十分な議論は行われていないように感じた。今は少し変わっているかもしれないが、15名の委員の意見がどの程度反映されているのか見えない部分はあると思う。

<浅田委員>

座長次第なのかもしれないが、市民公募委員もしっかりと発言できる環境であ

ってほしいと思う。

<三上副委員長>

過去に委員をしていた人から聞いたところでは、結論ありきで意見を言っても仕方ないとのことであったが、亀岡市は市民目線で行政を監視する団体もほとんどないため、行政改革をするのであればしっかりと運営してほしいと思う。

<松山委員長>

ほかにあるか。

<福井委員>

ロボットのPepperくんは現在使われていないと聞くがそうなのか。

<松山委員長>

委員間討議の提案があったが、討議を行うか。

<三上委員>

してもよい。

<松山委員長>

それでは委員間討議を行う。意見あるか。

<三上副委員長>

実際にPepperくんは使用されていない学校がある。使い道が非常に限られており、あれがないと教育できないということは、全くない。最近は一人一台のタブレット端末とロイロノートというアプリが入ったので、次代の流れとともに、Pepperくんやパソコンルームなど不必要なものはなくしていけばよいと思う。

<浅田委員>

確かにタブレットを充実していくほうがよいと思う。

<原野委員>

Pepperくんはレンタルであり、契約期間満了までは使用しないともったいないのではないか。

<三上副委員長>

教育委員会も、あれで教育を何とかしようとは思っていないと思います。ソフトバンクから提案があり、使っている程度ではないかと思う。

<竹内委員>

担当課からは、挨拶や英語、ドリルに使用しているとのことであったが、学校によって用途がまちまちであるため、どこを目指すのかしっかりとゴールを決めて役立ててほしいと思う。

《討論》

<松山委員長>

討論あるか。

<三上委員>

令和4年度一般会計決算認定について、反対の立場で討論する。詳しくは全体会か本会議で述べるが、予算のときに反対した理由として、市民福祉の増進という点で、不十分な点がある。令和4年度当初予算は、かなり拮抗して賛否が分かれた予算であり、実際の執行を見ても不明瞭な点があり、全てを否定するものではないが、認定しないという立場を取りたい。

<小林委員>

令和4年度一般会計決算について、市民福祉の増進を十分に考慮されたものだと考え、賛成の立場で討論する。

《採決》

- (1) 第4号議案 令和4年度亀岡市一般会計決算認定（所管分）
賛成多数・認定
- (2) 第10号議案、令和4年度亀岡市曾我部山林事業特別会計決算認定
賛成全員・認定
- (3) 第14号議案から第43号議案までの令和4年度各財産区特別会計決算認定
賛成全員・認定

《指摘要望事項》

<福井委員>

指摘要望でなくてよいので、行政改革審議会は、続けていけばよいが、公募の委員の意見もしっかり聞ける会議運営をしてほしい、という意見を入れていただきたい。また、過去にカットされた文化継承のための補助金の復活について意見があったことも入れていただきたい。

<三上副委員長>

指摘要望でなくてよいので、人権福祉センターの隣保館デイサービス事業などにおける委託事業内容の確認資料の提出を求めることや入札の在り方など、いわゆる説明責任が果たせるように事務執行に努めるよう意見していただきたい。

<小林委員>

指摘要望でなくてよいので、Pepperくんの今後の取扱いに意見をつけていただきたい。

<福井委員>

過去にカットされた文化継承のための補助金の復活について意見があったことも入れていただきたい。

<松山委員長>

では、一つに行政改革審議会について、公募の委員を含めしっかりと委員の意見を傾聴する環境をつくってもらいたい。二つ目に、業務委託において、事業者が行う業務内容の把握に努めること、三つ目がPepperくんについて、今後の取扱いをしっかりと考えた上で、教育環境の充実につなげていくこと、四つ目に、文化継承に係る補助金の復活について、を委員長報告の中に入れることとしてよいか。

<三上副委員長>

委員の意見を聞くことの重要性は、行政改革審議会に限ってのことではないため、市民が参画する会議全般についての意見としてはどうか。また、Pepperくんについては、例えば、人型ロボットにこだわらず、教育効果を高める方策を検討するような意見があったという程度でよいのではないか。

<松山委員長>

それでは、委員長報告にはこのように意見を盛り込むこととし、正副委員長に一任いただく。本日はこれにて散会する。

散会 ～16:58